

会 議 録（概要）

会議の名称	令和4年度 第3回 佐渡市地域包括ケア会議
開催日時	令和5年3月16日（木） 14時00分開会 16時10分閉会
場 所	佐渡市役所 3階 大会議室
議 題	災害時における要配慮者への対応について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>参加者 (公務員除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体 13名 (公務員) ・新潟県警察 佐渡警察署 生活安全課 生活安全係 係長 田巻和幸 ・佐渡市消防本部 予防課 課長補佐 中川清昭 ・佐渡市市民生活部 健康医療対策課 保健係 係長 田村京子 ・佐渡市市民生活部 市民課 保険年金係 主任保健師 石塚秀美 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市総務部 防災課 防災安全係 主任 中川英幸 ・佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 課長 出崎弘美 ・佐渡市総合福祉相談支援センター センター長 池田 修 ・佐渡市総合福祉相談支援センター 相談支援係 係長 海老由紀 ・佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 地域包括ケア推進係 係長 柴原祥二 ・佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 地域包括ケア推進係 生活支援コーディネーター 津山春香 ・各地域包括支援センター 4名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 No. 1 「第3回 佐渡市地域包括ケア会議について」 ・資料 No. 2 「避難行動要支援者支援マニュアル」 ・資料 No. 3 「気象概要」 ・資料 No. 4 「豪雪被害時の高齢者支援に関するレポート」 ・資料 No. 5 「養護者による高齢者虐待対応の対応手順」
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
地域包括ケア推進係 係長	1. 開会
座長 A 氏	2. 議題『災害時等における要配慮者への対応について』 最近の異常気象で従来とは違う災害が起きている。佐渡でも5年前にはほぼ全島が断水、今回は年末の大雪で多くの世帯が停電となり、全国に報道もされた。佐渡では高齢化が進み、高齢者独居や老々世帯が多く、過疎、雑木間伐も進んでいない等の状況で起きた経験したことのない災害だった。 本日は、災害時における要配慮者への対応について、皆様の経験したことを含め、活発な意見で次の災害で参考になる、全国に発信できるような結果が出ればと思う。
地域包括ケア推進係 係長	(1) 会議概要説明「第3回 佐渡市地域包括ケア会議について」 資料 No. 1 により説明。質疑なし。
防災安全係 主任	(2) 状況説明 ① 避難行動要支援者支援マニュアル 資料 No. 2 により説明。
座長 A 氏	要支援者、何人位いると想定しているか。
防災安全係 主任	令和4年5月現在、対象要件に合致する方が7,896名、避難行動要支援者名簿に載せることを同意した方が4,849名。現在、約61%の方が名簿に記載している。
座長 A 氏	このマニュアルは公開されているのか。
防災安全係 主任	まだ公開していない。今、嘱託員会議等が始まる地域に向け準備を進めている。これから出る。
委員 B 氏	名簿の記載内容、変更があっても申し出がない限り修正されず、漏れが生じるのでは。毎年、名簿に記載がある方への確認は考えていないのか。
防災安全係 主任	緊急連絡先の方が亡くなる等、確かに問題がある。地域の自主防災会と民生委員に名簿を配った際に、気づいたら、要支援者本人に確認し変更届を出すようお願いしている。全員に聞き取ることはできていない。名簿に未記載の方には、毎

<p>防災安全係 主任</p>	<p>年、案内を出している。</p> <p>② 令和4年12月の大雪災害における対応等について 資料 No. 3 により説明。</p>
<p>委員 B 氏</p>	<p>孤立した地域での安否確認、課題や手ごたえがあったら教えてほしい。</p>
<p>防災安全係 主任</p>	<p>電話が通じないところは職員が訪問して対応したが、回れる数に限りがあり確認に複数日かかった。</p> <p>社協が豊岡の施設で、民間から発電機を借り、利用者をいつも通り集め皆で暖を取っていた。そこで健康状況の確認が取れ、安否確認に回る時間を短縮、食料等の提供もしやすかった。このようなことが、集落センター等を活用してできれば、と考えている。</p>
<p>委員 C 氏</p>	<p>社協では、暖かい所がいいだろうと岩首のデイサービスを避難所にした。</p> <p>社協では年末、弁当を配る事業があり、民生委員やボランティアから配ってもらうのだが、「雪で危ないから止めた方がいい」とお叱りも受けたが、「配ることで安否確認ができるから、やれるだけはやろう」と。</p> <p>デイサービスは停電でも職員は出ている。連絡が取れない方の家まで行き、安否確認と要望を聞き、各ケアマネジャーへ連絡をした。ケアマネは1人が40件位のケースを抱えており、全部確認できる状況ではなかった。</p> <p>赤泊の避難所へ弁当を届けた際に、「買い物へ行きたい」と要望があった。行政サービスセンターへ「車を出せるので希望者は利用してほしい」と連絡し、4名位が買い物へ行った。その都度、状況を見ながらすぐに動かないと意味がない。今後の様々な対策に、1つの方向性や具体的なやり方として記録していくことは大事だと思う。</p>
<p>委員 D 氏</p>	<p>民生委員は1月の理事会で今回の大雪の話があった。両津北部地区等は、自主的に要支援者の安否確認をした。携帯電話が繋がらない、道路が除雪されておらず行けない状況で、公衆電話等が固定電話に繋がり非常に有効だった。孤立している高齢者は連絡が入るだけでも安心する。そういった活動はしていかないといけない。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>長岡や柏崎でも停電はあったが、佐渡が一番長かった。こ</p>

<p>防災安全係 主任</p>	<p>これは電力会社の人員配置の問題か、佐渡特有の問題があったのか。</p> <p>検討中。倒竹・倒木で電線等に支障がでた。倒竹・倒木で除雪ができず現場まで行けない。電力会社はすぐに佐渡へ応援に来てくれたので人的問題はないと思う。大きな要因は23日に降った雪。18日から復旧に当たり、せつかく復旧したところに、再度支障をきたしたことが長期化の要因ではないか。</p>
<p>地域包括ケア推進係 係長 委員 E 氏</p>	<p>資料 No. 4 により説明。</p> <p>市で持っている非常食、嚙下障害に配慮した食事は持っているか。今回、嚙下障害の課題はあったか。</p>
<p>防災安全係 主任</p>	<p>持っていない。カレーやアルファ米、アレルギー対応品はあるが、嚙下対応まで至っていない。嚙下障害の課題は全てとは言えないが、レポートを見る限り、特になかったようだ。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>非常食の中にカップ麺はあるか。</p>
<p>防災安全係 主任</p>	<p>カップ麺はない。ただ、今回の停電で食料提供していただいた中に、カップラーメンがあったので配った。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>前回の断水時に、心臓の悪い方にカップ麺が配られ、心不全を起こし入院しそうになった。心疾患のある方には多く配らないでほしい。</p>
<p>委員 F 氏</p>	<p>介護認定審査会で、低体温症で入院し、ADL が悪化した事例が 2・3 件ある。使い捨てカイロの支給は、どの程度の範囲でされたか。</p>
<p>防災安全係 主任</p>	<p>かなりの数を配った。センター等に欲しいと要望があったり、要支援者へ安否確認をした際に欲しいというところへ配った。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>低体温症で救急搬送された方はいるか。小倉の方が救急搬送され、診断書が低体温症だった。</p>
<p>佐渡市消防本部</p>	<p>救急報告を直接見る立場にないので分からないが、低体温</p>

<p>委員 G 氏</p>	<p>症で何か苦労した、という話は聞いたことはない。</p>
<p>佐渡市医療対策課 保健係 係長</p>	<p>内服の問題、メンタルヘルスの問題、感染症の問題、その他に医療ニーズが何かあったか。</p> <p>保健師が健康観察へ行くと、要介護 5 の父の状態が落ち、入院レベルではないかと。しかし精神疾患のある息子が「入院できなかつたら」と不安がり決断できなかつた。そこで毎日確認しに行くことに決め、夜は民間の訪問看護へ協力をお願いし見守ったケースがあった。</p>
<p>委員 G 氏</p>	<p>看護協会佐渡支部には 320 名程在籍しており、救急、災害看護、災害対応研修を受けているスタッフもいる。行政だけが一所懸命やる必要は全くなく、是非、そういったときは声を掛けてほしい。避難所における健康観察、感染予防対策等のアドバイスと対応はできる。3.11 のときに石巻へ行き、避難所の状況、長期に渡ると様々な課題が上がってくるのを体験している者は多くいる。是非、私たちのリソースを活用してほしい。そのために、災害発生時にどこに連絡をしたらいいか、どこに連絡をするとその状況が分かるのか、窓口等の体制が整うといい。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>(3) 意見交換</p> <p>① 災害時における対応の課題</p> <p>② 各団体等におけるネットワークとしての取組み</p>
<p>委員 E 氏</p>	<p>食料の確保が非常に大切。今回フェリーが止まり、あるパン屋に凄いい発注が来て夜通しパンを作った。職員が長時間労働となり労働監督署に出す書類の都合上、受診をした。パンだけでなく他の物資も止まるので、それらを含めたこれからの対策、考え方が必要と感じた。</p>
<p>委員 E 氏</p>	<p>飲み込みが悪い方への食事、ニーズはあると経験から感じている。老健・特養では非常食を 9 食分持っており、飲み込みが悪い方の非常食も用意している。協力体制は取れると思う。</p> <p>特養、老健、デイサービス、ショートステイ等を要介護者は普段使っており、被災した際には、大丈夫かなというところ、横の繋がりが強固になるといい。行政栄養士と栄養士会の繋がりが持てるといい。</p> <p>地域の災害対策に対する意識が凄く低かったことを、とて</p>

<p>委員 B 氏</p>	<p>も反省した。恐らくこのような栄養士は少なくないと思う。栄養士個々の意識を高めて行くような働きかけを、栄養士会へ持ち帰り、根気強く続けていきたい。</p> <p>特養の連絡協議会では、災害時には応援体制の申し合わせ書があり、無事な施設での受け入れ、食料、飲料水等の物資でも協定書を結んでいる。施設には非常食の備蓄は必ずあり緊急的に使うことはできる。非常食の使い方が分からないとのこと、例えば、定期的に市報に載せる等、常にアピールしていくことが必要。</p> <p>特養ではデイサービスとショートステイが併設されており、市の許可が必要にはなるが、例えば、非常時は定員オーバーしてもよいとか、ショートステイはリビングに簡易ベッド等を入れ、受入れることはできる。</p> <p>防災シミュレーションをやるとのこと、是非、モデル地区を複数個所決め、実施してほしい。福祉施設も一緒にやれたらと思う。</p>
<p>委員 F 氏</p> <p>防災安全係 主任</p>	<p>今回、自主防災会は活動したのか。</p> <p>幾つかは活動していたようだ。自主防災会かは分からないが、川茂では集落センターで発電機を使い集まれる体制をとっていた。他に自主防災会会長や集落長が広報に回ったり、丸山では安否確認に回っていた。</p>
<p>委員 F 氏</p>	<p>自主防災会に対し、市から何か働きかけがあってもいい。あまりにも自主に任せるのもちょっと。緊急時には集落長なりに、何かしら依頼をした方がいいと思う。</p>
<p>座長 A 氏</p> <p>防災安全係 主任</p>	<p>避難所の開設は、何か基準があるのか。</p> <p>「自宅が危険だから直ちに出てください」が本来。今回はイレギュラーで、そこまでの状態ではなく、当初は長引くとは思っていなかったのもので、暖が取れる場所を用意した自主避難所という格好だった。</p>
<p>委員 H 氏</p>	<p>災害が長期間になると、我々が活動する場面はあると思う。大震災のとき、災害死よりも災害関連死の方が多かった。今、老健へ応援に行っているが、コロナで私が行くまでの2ヶ月程、全くりハビリをしていなかったのもので、かなりレベルダウンし復帰できない方が多くいた。</p>

委員 I 氏

避難所では体操指導が必要になる。介護施設・福祉施設を一時避難所とみなし、簡易ベッド・段ボールベッドでもいいので備蓄し、発電機を用意し、災害に強い施設にするために市が補助することが大事。

非常食の食べ方、賞味期限が近いものを一般の方々に作って食べてもらうことを広くやるといい。家族の誰かが知っていればいいと思う。

介護福祉士の運営委員会の3名が、南部地区の各施設にケアマネジャーとして務めている。実際、利用者は皆、本当に大変な状況だった。独居、高齢者世帯には援助が入るが、同居親族がいるところには支援の手が行かないため、その方たちのストレス、床ずれの悪化、低体温、廃用症候群が進んで、皆、右往左往していた。そのときに両津病院が空きベッドで一時的に入院支援の対応をしてくれる話があり、私たち凄くホッとして「一筋の光が見えた」と言って、本当にありがたかった。1名位しか入院はしなかったと思う。結局、主治医の問題、入院時提供書だけで入院が進められるのか等のハードルがあり、利用に踏み切れないケアマネジャーもいた。

本当に本当に大変だった。独居高齢者の方、生きていいのか、どうなのか確認できず、倒木で歩いてしか行けない。そのような状況でケアマネジャーがショートステイの送迎もスノーダンプを使い、利用者を家から車までという送迎が幾つもあった。3・4人で送迎に行ってくれた施設もある。本当に大変で、大変勉強になって、今回のことを少しでも今後活かせたらと思う。私共も、もう少し、介護の現場として何かできればと思っている。

委員 J 氏

司法書士会は災害時にどうこうということはないが、私、中越沖地震のとき柏崎の職員宿舎で被災した。停電で携帯電話は中継基地のアンテナに電気が通っておらず使えないのだが、佐渡には防災無線があり、恐らく電池があれば使える。定期点検を促すことで災害状況や避難所でのサービス状況等、伝えることができる。

今年の豪雪、事務所のひさしが2階から雪が落ち潰れた。個人の災害復旧には補助があるが、事務所の補助はないので残念に思っている。

一番怖いのは地震。3.11は東京の台東で被災し、周りのビルの外壁が落下し、外へ飛び出した職員を慌てて引き留めた。震災対策として家の中の安全、逃げ出す前に家の中での

	<p>怪我も心配、そのへんの対応もしてほしい。</p> <p>来年4月から相続登記の義務化が施行される。これは3.11の大地震で、高台に避難所を建設しようしたら、土地の地権者、相続人が300人もいて仮設工事が上手く進まず、取り付け道路も買収ができない状況があったため義務化されることになった。</p>
<p>委員K氏</p>	<p>今回の豪雪被害、法的な問題があったとの報告はない。</p> <p>弁護士会にも災害対応の部署があり、県内の他市町村では災害が起きたときに法律相談会等、弁護士を派遣し対応を取ったところもある。災害連携協定を弁護士会と市町村とで締結しているところもあるが、佐渡市はまだしておらず、必要があればそういうのも可能かと思う。例えば法的問題、家が壊れてしまった際の住宅ローンの問題、罹災証明書が必要になった、保険金請求が必要になったとか、弁護士の力が必要になるかもしれない。必要な際には協力できるかと思う。</p>
<p>委員D氏</p>	<p>横の繋がりが今後の課題。これだけの人たちが集まり、この場で集まって話をしたら、いろいろ協力してもらえることが出てくる状況がある。その状況を今後、佐渡市中心に作って行けたら、次回災害が起こったときに支援者の方たちに少しでもいい状況でサポートできると思う。</p>
<p>委員C氏</p>	<p>お互いに情報をやり取りすることは凄く大事。ただ、民生委員に情報を全て渡すかということ、介護保険を扱っており、同意をしている項目については提供できるが、それ以外は難しい。でも災害が広範囲に起きたときに、そんなことを現実にとっていられるのか、非常にじくじたる思いがある。予め「民生委員にはいいですよ」という同意を取り、介護保険の契約をするのは、ちょっと難しい。検討課題として、全体で考えていかないといけない。</p>
<p>委員L氏</p>	<p>停電が長期化した地域、保健師が回られたとのこと。各地区で何件、対象の支援の方がいたのか教えてほしい。</p>
<p>高齢福祉課 課長</p>	<p>人数は持ってきていない。両津地区、畑野地区、真野地区、羽茂地区、赤泊地区で総勢12人の保健師で回っていた。</p>
<p>委員L氏</p>	<p>件数を把握して残した方がいい。</p> <p>「発電機があったところはとても助かった」と話していた</p>

<p>佐渡市警察署</p>	<p>が、発電機は災害でなければ使わないところが多い。建設業は発電機をいっぱい持っており照明もある。上手く建設業と連携すればもっとよくなると思う。</p> <p>マニュアルの 21 頁、要支援者名簿ができ、支援者が要支援者のところへ行っただけでない。実はショートやデイサービスへ行っていただけとなると無駄な労働時間となる。ケアマネは一カ月単位で予定が分かるので、この中にケアマネが入力できるシステム、タブレットでも何でもいい、そのようなシステムで分かるとうまく動きがなくなる。地域の支援者にタブレットを渡すとか、そういうネットワークを用意してもらえるといい。</p> <p>昨年末の大雪のときに当直でいた。小倉の県道、真野から赤泊へ抜ける道が通行止めになり、夜通し対応に追われた。倒木等でなかなか解除できず、道路管理者に「早くしてほしい」とお願いしていた。警察としては情報収集、現場対応等に追われるので、どうしても安否確認等が必要となれば、同行するので通報をお願いしたい。</p> <p>警察官になりたての頃、十日町も震度 6 強が続き、署の建物も外壁が落ちる酷い状態だった。私は情報収集班で住宅街におり、避難所では「人手が足りないので手伝ってください」と言われ、車椅子を押ししたりしていた。警察官がいたら、気軽に声を掛け、「手伝って」と言ってもらいたい。</p> <p>大きい災害はどうしても順番になり「ちょっと時間がかかっても、安否確認してください」という形で対応できればと思う。包括支援センターや行政等と、今後も横の繋がりをもち、このようなことをやっていきたい。</p>
<p>佐渡市消防本部</p>	<p>大雪では、竹が落ちてきてアンテナや赤色灯に引っ掛かる、遠回りして行かなければならない等、ルート確保に非常に苦慮した。対応として、ここまで救急車で行けるが、その先は行けないと想定。ハコバンにスノーボードを積載し救急出動と同時に出て、傷病者をスノーボードに乗せて引っ張ることにしたが実際にはなかった。近くまで救急車で行けたが、家までの道が雪をかいておらず非常に苦労した事案があった。今回、経験をしたことで、更に道路状態、ルート確認の重要性を感じている。例えば、警察と消防が道路情報のネットワークみたいなのが取れば、もっとスムーズに動けると思う。</p>

佐渡市医療対策課
保健係 係長

先程の保健師の家庭訪問、私は24件位、猿八と丸山の方を回った。高齢者の血圧を測ると皆が高かった。豆炭炬燵、高齢者は夜も昼も布団のようにずっと入っているため、訪問時に、コタツから出て立って歩く動作がなかなかできず、フラフラして転倒や脱水も心配だった。石油ストーブにぶつかり倒れたら火事になるし、隣の人が良かれと思い石油ストーブに水をはって来てあるも水がなくてカラカラ。様々な課題があり考えていきたい。

そんな中、石油ストーブを持って来てくれた、ご飯を炊いて持って来てくれたとか、地域では隣近所の付き合いがあり、強みとして活かしていくことが大事、地区単位のアセスメントをしていかないといけない、とも思った。

私たち地区担当保健師は、本当は地域住民を全部把握している必要がある。小千谷や小出で、あれだけ大きな地震があったのに被害が少なかったのは、地区担当保健師がほぼ全数把握をしていたのが大きな力だった。それが佐渡市保健師はできていない。市役所本庁舎にいと縦割りを強く感じる。例えば、障害の方は障害福祉が行くと思うから、私たちは赤ちゃんや妊婦さんの把握をしようと動くも、この家には高齢者もいて。丸ごとみることが大事だが、そこがなかなか難しい。まず市役所の中からも横の繋がりやの仕組みを検討させてもらいたい。

佐渡市市民課
保険年金係
主任保健師

災害の規模によっては、県から通知が出て、保険証がなくても医療機関を受診ができる場合もある。

私も23・24日、職員に三次配備が掛かり出向いた。スコップ、スノーダンプで除雪をし、現地に行くまでが大変だった。私がお会いした30代男性の被災者の方、到着は2時過ぎだったが、男性が起きたときには背丈ほどの雪があり、朝雪かきをしたら疲れ切ってしまい、「皆さんはどうやってここまで来てくださったんですか」と、凄く呆然と立っておられたのが印象的だった。

支援に入り思ったことは、佐渡市は運動定着ができないことが健康課題の1つとしてあり、私たちも体力がなく雪道を進んで行けないことがないように、市民も薬や医療機関の受診、福祉サービスの利用ができる、できないは、凄く重要になってくる。私たちの立場でできること、日々の健康づくりを、いかに市民に伝えていくかが課題だと感じている。

後期高齢者事業で、高齢者と介護予防等の一体的実施という事業を、来年度、佐渡市全域で展開する。その中で、高齢者の健康状態未把握者の実態把握事業があり、健診等を受け

<p>委員 G 氏</p>	<p>ていない方たちに優先順位をつけ、佐渡市保健師、栄養士、包括支援センターの協力を得て情報把握を進めていく。</p> <p>日々の活動が、万が一のときに、この家の方はこのように過ごされている、スクリーニングにもなるので、来年度以降も推進して行きたい。</p> <p>災害時、様々な対応をしようとしてもリソースが限られている島内で、全て公助で賄うことはできない。自助、共助、公助のバランスが大事。特に要支援者で「自分たちで何とかしなさい」というレベルが一番取り残されやすい。要支援の方は様々な場面で、様々な人の手が入るので、自助の部分を上げていくことを考えないといけない。食事や生活、例えば「3日間、自分達が食べる物は用意しておこう」「寒くなると困るから用意だけはしておこう」と、私たち看護職も様々な場面で伝えることもできる。市を上げて自助の力を上げて行けるような広報や啓発をしていくことは課題だと思う。</p> <p>リソースの活用をいかにしていくかが大変重要。先程から「こんなことができます」「こんなことやれます」と全ての方々からの発言をまとめておく。建設会社の発電機、なるほどって思った。どのような団体、どのような施設、どのような業者が、どのようなことができるのか、をまとめ、リソースの働ける範疇、協力できるところをまとめておくだけでも災害には対応できると思う。体制を整えることは凄く重要で大変なことだが、団体として協力できることは是非したいと思う。</p>
<p>委員 M 氏</p>	<p>薬剤師会として、今回の災害で活動はなかったが、私たちも在宅訪問を業務として行っている薬局もあり、そこで情報共有はできると思う。今週末に県の薬剤師で、防災に関して何か取り決めがあるか、という会議がある。佐渡薬剤師会として必要だと思っけていても、なかなか進んでいないのが現状。まず、薬剤師会でもネットワークを構築し、横の繋がりで、情報共有や何か依頼があればすぐに駆け付けられるよう、薬剤師会としても協力していきたいと思っている。何かあったら声をかけてほしい。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>要支援者の大多数はデイサービスを利用しており、そこである程度の人数把握ができるが、そこから外れてしまう方をどうするか問題提起された。</p> <p>デイサービスは停電になると休みになるが、そのピンチをチャンスに切り替え、別の行動を取られたのは非常に感銘し</p>

	<p>た。逆手にとり安否確認、送迎、やれることをやろう、と工夫されたことは、今後にも繋がって行くと思う。</p> <p>多職種で協力、情報共有が非常に必要だが、個人情報という非常に難しい問題もある。</p> <p>テレビ報道で、集落に集まり食事を作りあい、上手くいっているのが全国放映されたが、これは自助だと思う。もう少し自助を上手く使っていけるよう考えた防災マニュアルを作ってもらうことも必要と感じた。</p> <p>看護協会から、「やれることが私たちあります。もっと言ってください」と2度3度強く訴えられた。リソースできる、眠っている力を有効に使うこと、皆からも出てきた。</p> <p>停電の強化を。1つは建設業、それから佐渡市でも用意するといい。柏崎にある発電車を借りて来られないかなとも思う。</p> <p>防災無線の話、今回停電で被災された方たちも、情報が全然なく不安を持っていたと思う。介護現場から、両津病院のベッドの話で「光が見えたら気持ちが楽になった」と。困っている人たちへの情報提供は大きな力になる。</p> <p>皆から、いただいた意見を次の防災計画に活かしてもらえたら、今回の会は有意義なものになると思う。</p>
委員 F 氏	<p>(4) その他</p> <p>自主防災組織は、大体、集落長が毎年変わり申し送りで行っているだけ。なので、このような系統的な講義、講演があるといい。年に1度でも集め、このような解説をしてもらうと、もっと自主防災組織も充実すると思う。</p>
総合福祉相談支援センター センター長	<p>3. その他</p> <p>資料No.5、高齢者虐待対応マニュアルの養護者による高齢者虐待対応の対応手順の見直しについて、今年度、試験的に運用し、その中であきらかに虐待の疑いがないと判断した相談は、国のマニュアルを参考に見直しをした。</p>
地域包括ケア推進係 係長	<p>今年度の包括ケア会議は今回で最後。来年度は年3回、第1回は8月頃を予定している。正式な日程が決定したら、各団体を通じてご案内させていただく。</p>
地域包括ケア推進係 係長	<p>4. 閉会</p>